

2月26日(日) 第二礼拝 「感謝の命令」 コロサイ 3章 15～17節

心の中に感謝の花が咲く人、その人は幸せな人です。今日犯す色々な罪は、感謝の足りないところから起こります。他の人に喜びを与えることはできない上に、神様を喜ばせることはできません。神様から祝福を受ける秘訣は感謝にあります。状況が良い時だけ感謝するのではなくて、聖書は全てのことに感謝しなさいと命令しています。感謝するならば、私たちに平安(シャローム、キリストの平和)が臨みます。天の父なる神様は私達に感謝を教えておられます。感謝は命令です。

主が私達にしてくださったことを覚えることで、感謝することができます。罪のゆえに呪われ、地獄に行くはずだった私たちは、キリストと共に十字架につけられ、葬られ、イエス様と共によみがえりました。救われた私たちは、聖霊の宮、神の神殿となります。主が私達の内に住んでおられることを覚えることが祈りや感謝となります。

洗盤は私たちの日々犯す罪のきよめです。聖所にはパン(御言葉)、香壇(祈り)、金の燭台(聖霊)があります。御言葉を実現するのは祈りと聖霊です。祈る時、聖霊様が無条件の愛を私たちに体験させてくださいます。至聖所は主と一体となる所です。主の御座では七度の血潮が注がれます。契約の箱の契約の板、十戒がそこで実現されます。アロンの杖と金の壺はいのちとよみがえりです。そのことを覚えて感謝することができます。

次に、逆境の中でも感謝することです。良き神様が良いものをくださると信じる時に感謝することができます。私たちが主を握るなら、どんな環境でも喜ぶことができ、逆境の中でも希望が満たされます。「そのとき、いちじくは花を咲かせず…しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。(ハバクク 3:17.18)」 「すべての事について、感謝しなさい。…(Iテサロニケ 5:18)」

時に、主は私達に燃える蛇やさそりを見せ、大きな恐ろしい荒野、水のない、かわききった地を通らせることもあります(申命記 8:15)。荒野は人間の力では生きることのできない試練の場所です。そのような所で神様が天から祝福を注いでくださいます。荒野は、死からのちへ、絶望から希望へ、審判から救いへ変わります。荒野はヘブライ語でミドゥバル(「主が言われる」という意味)です。主の言葉で生きることが学ばせるのが荒野です。

逆境は、私達を幸せにするためにあります(申命記 8:16-18)。荒野は自分の実力ではなく、主の御言葉や力、守りで生きることを知り、心に主の御言葉を据えることを覚える場所です。荒野の訓練が無い人は自分の実力で成し遂げたいと思い、感謝することができず、心に平安がありません。私たちが主に感謝し主に栄光を帰す時、心に満足が与えられます。

感謝には祝福が伴います。私たちが話す言葉を全て主は聞いておられます。悪魔たちもまた否定的な言葉を待ち構えています。私たちが肯定的に感謝の言葉を語るなら、神様が御使いを送って私達を助けてくださいます。感謝をする人は主をあがめ救いを見ることとなります(詩篇 50:23)。言葉によっても、行いによっても(詩篇 50:4:踊りをもって)主に感謝しましょう。アーメン!